

自然共生サイト「堂谷津の里」

N P O 法人 バランス 2 1

1. 自然共生サイト「堂谷津の里」の誕生

堂谷津（千葉市若葉区谷当町）は千葉市の谷津田保全施策のもとで2007年に保全区域に指定されました。この堂谷津の環境保全に従事する市民団体が2012年設立のNPO法人バランス21です。バランス21は、堂谷津の活動団体として、土地所有者ならびに千葉市役所と活動協定を結び、荒廃した自然環境の再生に取り組みました（図1）。

「谷津田の自然」の回復を果たした堂谷津の里は、2024年3月に生物多様性が保全されている区域として環境省の自然共生サイトに認定されました（図2）。8月にはOECM※として国際登録され生物多様性回復の国際目標30by30の達成に貢献しています。

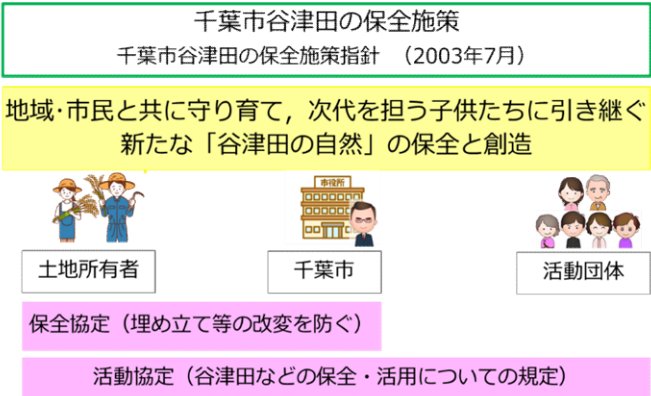


図1 千葉市の谷津田保全施策 千葉市の資料から作成
注）堂谷津の里は保全区域堂谷津の愛称です

※Other Effective area-based Conservation Measures



図2 自然共生サイト堂谷津の里 区域図
注）区域は黄色の範囲、GIS面積：10ha、2023/9/16
青色破線内は千葉市谷津田等保全協定締結区域
（一部、未締結区画を含む） 2024/3/31現在

2. バランス 2 1 の環境保全活動

バランス21は、谷津の改変を避けながら「谷津田の自然」の回復を図るとともに、堂谷津の里の二次的自然を自然体験や環境教育などに生かす活動を行ってきました（表1）。

表1 活動の経過

自然の回復	米づくり（2012年～）→ビオトープ整備（2014年～）→森づくり（2015年～） 動植物の保護・保全（2013年～） 地下水の有効利用で谷津田の渇水緩和（2019年～）
環境の活用	都市住民向け「体験と学びのイベント」の企画・運営（2014年～）



荒廃した堂谷津 2011年10月



「谷津田の自然」が回復した堂谷津の里 2021年2月

(1)「谷津田の自然」を取り戻す

米づくり 米づくりは湧水を利用する無農薬の冬期湛水不耕起栽培です。これまでに雑草防除法や湧水緩和策、労力軽減のための極疎植栽培法を検討し、堂谷津の里の湿地環境の回復・維持に努めてきました。

森づくり 田を囲む斜面林はその場の環境や森林所有者ごとの管理方針などにより針葉樹林、落葉広葉樹林、常緑広葉樹も混じる針広混交林等が形成されています。それらを基本にナラ枯れ病や台風被害などにより生じたギャップや小規模皆伐地に、その場所にふさわしい現存樹種の植林やその場の実生苗を保育しています。結果として多様な林相、場所ごとの樹種・樹齢、下草刈りの頻度差など、樹林地自身も多様な環境を有しており、田や草地、湿地などと合わせ堂谷津の里全体の生物多様性を高められると考えられます。

動植物の保護・保全 堂谷津の里では、荒廃した里山を人が再び手を加えることで様々な生態系を取り戻し多様な動植物が関わり合いながら生きる環境となるように整備しています。湧水を利用した冬期湛水の谷津田、周りの斜面林の整備、ため池や湿地の維持など段階的に進めてきました。また、動植物のモニタリング調査を継続、保全活動へ反映させることで多様な動植物の生息・生育する環境を取り戻しました。堂谷津の里でこれまでに確認した動植物は、植物462種、チョウ57種、トンボ22種、両生類5種、爬虫類8種、哺乳類10種、鳥類43種になります。

(2)「谷津田の自然」を活用する

2023年度は、自然環境の再生・維持に年間のべ790名あまりのNPO会員が従事し、イベントにはのべ450名の市民が参加しました。イベントに参加した市民から「本当に自然がいっぱいで驚きました」等の声が寄せられています。

3. 堂谷津の里の生物多様性

バランス21は10年以上にわたり無農薬の米づくりを続けていますが、堂谷津の里には無農薬の米づくりが成立する、生物多様性に富んだ自然環境が形成されていると感じます。

五感が目覚める体験と学びの里



絵地図

堂谷津の里 (活動中心区域)

2023年3月



谷当里山計画
NPO法人バランス21
ホームページ

(2024年10月)